

**DENSO**

株主のみなさまへ

## 2005年度 事業報告書

(2005年4月1日～2006年3月31日)

株式会社 **デンソー**

(証券コード 6902)

## CONTENTS

2005年度 事業報告書  
2005年4月1日～2006年3月31日

株主の皆様へ	1
開発物語:自動車用IC	4
トピックス	6
第39回 東京モーターショーに出展	
環境への取り組みの長期方針「デンソーエコビジョン2015」の策定	
金属意匠盤メータを開発	
2重管式内部熱交換器を用いたカーエアコンシステムを開発	
卓越技能者表彰(現代の名工)を受賞	
こんなところにもデンソーが?!	8
主要製品一覧と主な得意先	9
連結業績の推移	10
セグメント情報	11
連結財務諸表	12
財務諸表(単体)	14
株式の状況	15
会社の概要	16
デンソーホームページ「投資家情報」他	17

# 株主の皆様へ

平素より、株主の皆様には格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、当社は当期におきましても好調な業績をおさめることができました。

この場をお借りしまして、業績の内容のご報告をさせていただくとともに、

当社の今後の取り組みについてご説明いたします。

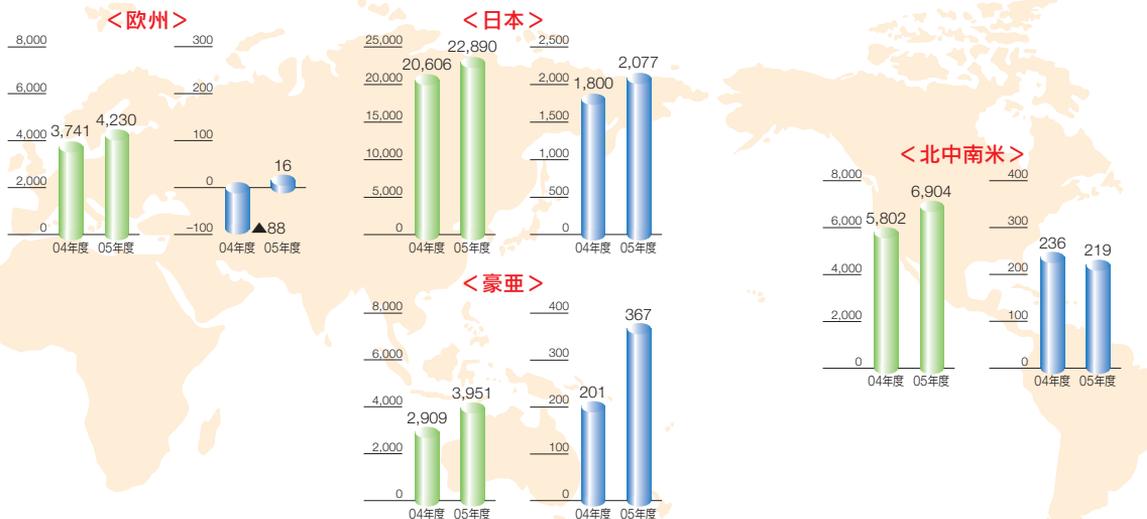
## 2005年度の連結業績概況について

当期は、国内外で好調な日系カーメーカーへの売上を伸ばし、売上高は初めて3兆円を超え、3兆1,883億円と前期に比べて13.9%の増収となりました。この売上増加に加え、コスト低減、生産性向上など経営全般にわたる合理化・効率化に取り組んだ結果、営業利益は2,666億円、前期比24.6%の増益、経常利益は2,831億円、前期比25.9%の増益となりました。地域別に見ましても、新規拠点立ち上げに伴う生産移管費用や新製品へ

の切り替えに伴う費用増により増収減益であった北中南米を除き、増収増益となりました。特に欧州は、コンレールシステムやカーエアコンの増産効果などで、6年ぶりに黒字化を達成しました。

当期純利益は1,696億円、前期比27.9%増益となりました。好調な業績に伴いまして、期末配当金については1株当たり20円、年間では前期と比べて6円増配の1株当たり38円とさせていただきました。今後も株主の皆様への利益還元のため、一層の努力を重ねてまいります。

## 地域別(当社グループの所在地別)業績 (単位:億円) ■売上高 ■営業利益



次期の見通しですが、為替変動、素材費高騰の影響などの不安定な要素はありますが、車両生産は国内外で底堅く推移することが見込まれるため、売上高3兆3,800億円、営業利益2,820億円、経常利益2,930億円と、いずれも当期を上回ることを予想しています。

### 新たな長期構想について

当社は、2年前に、2015年を見据えた「DENSO VISION 2015」を策定しました。このビジョンには、クルマが地球と人に負荷をかけることなく共存でき、人々が豊かさを実感できる社会「先進的なクルマ社会」の創造に貢献したいという想いと、世界中のお客様に商品が喜ばれて信頼と期待をいただき、各地域にしっかり根付

いた事業基盤を確立し、世界の知恵を集めて進化しつづける「真のグローバル企業」へと進化したという2つの想いを込めました。

2005年度には、ビジョンの実現に向けた新たな長期構想を策定しました。2015年に向けて、自動車に求められる機能は、「環境」「安全」「快適」「利便」の分野でますます重要になり、エコカーやITS(高度道路交通システム)などが私たちにとってより身近になると考えられます。こうした将来を見据えて、長期構想では、2010年をターゲットとした当社のあるべき姿について、技術、生産、マネジメントなどの面から、既存の枠に捉われない大胆な議論を進め、変革の方向性と具体的な取り組みを決定しました。

### 2015年のクルマ像

#### 地球に対して優しいクルマ

- エミッションを圧倒的に低減した高出力エンジン
- ガソリンハイブリッド

#### 疲れずに運転できるクルマ

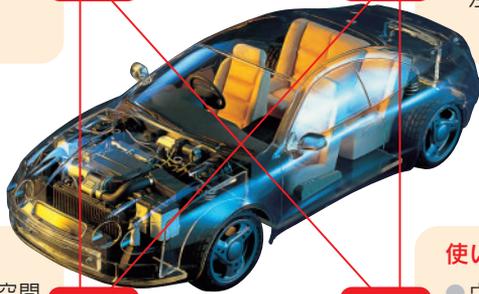
- パーソナル空調と個人適応空間を重視したシステム

環境

安全

快適

利便



#### 事故のないクルマ

- 衝突安全から予防安全に注力した衝突回避システム

#### 使い勝手のよいHMI※システム

- ウインドシールドディスプレイ
- 音声対話操作

※HMI: Human Machine Interface

## 2006年度の取り組みについて

2006年度は、ビジョン実現に向けて本格的に行動を起こす年であります。そこで、ビジョンに込めた2つの想いである「先進的なクルマ社会創造への貢献」と「真のグローバル企業への進化」を柱として、取り組んでいます。

1つ目の「先進的なクルマ社会創造への貢献」については、お客様の安心と満足を獲得できる品質保証体制の強化、“デンソー発の業界標準”となるシステムやコンポーネントの開発などに取り組みます。

2つ目の「真のグローバル企業への進化」については、安全かつ強靱な製造体質の実現に取り組むとともに、全世界のグループ会社でデンソー流モノづくりを定着させ、グローバルな生産・調達体制を作ります。また、デンソーグループが世界各地域に根付いた事業運営を行うために、地域の自律性と効率性を高めるグループ経営体制の確立に取り組んでいきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2006年6月  
取締役社長

深谷 絃一



## 自動車用IC

最近の自動車には、車としての基本的な機能を果たすため、さらに安全性や性能の向上のために数多くのICが使われています。デンソーでは自動車用ICの多くを古くから内製しており、現在では国内の大手半導体メーカーとも肩を並べる規模の生産を行っています。こうしたIC生産の背景と現状を常務役員 白崎慎二に聞きました。

常務役員  
パワー機器事業部  
デバイス事業部 担当  
白崎 慎二



### 自動車用ICの特徴

コンピュータを使った電子制御により、自動車の「走る、止まる、曲がる」といった基本性能が高度化し、エアコン、カーナビ、キーレスエントリーなどで車の利便性や快適性が飛躍的に高まっています。こうした製品の機能実現には様々なICが不可欠で、最近の上級車では、1台に50個以上のマイクロコンピュータが使用されています。

私たちが日常使っているテレビや携帯電話、冷蔵庫などにもICが使われていますが、自動車用ICとこれら家電用のICとの違いは、過酷な環境下で使用されるという点です。自動車用ICは、マイナス40度からプラス125度の温度に耐え、さらに走行中の絶え間ない振動の中でも求められる性能を発揮しなければなりません。また、車が使用される期間、つまり10年以上に亘って故障なく正しく働くことが要求され、究極の信頼性が求められるのです。

### ICを内製する意義

デンソーのIC内製化の取り組みは、世の中でトランジスタが急速に普及し始めた1960年代に遡ります。将来は車のエレクトロニクス化が進むであろうと予見し、半導体のコア技術を理解したうえで独自の電子技術を持つことが必要になるだろうと、自動車部品メーカーでは初めて自らICの開発と製造を手がけるようになりました。これは、大きな決断でした。

そして、自動車を知り尽くしたうえで、ICの製造技術もあわせ持っていることが今では大きな強みとなっています。車にとって何が重要かという本質を見極めながらICを設計し、期待される信頼性に十分に応えながら、一味違った製品を自在に作り上げられるところにデンソーの独自性があります。社内に様々な技術資産を有していますので、車の開発段階から制御システム、ECU(コンピュータ)と同時並行でICの開発を進めることができ、ICからシステムまで一貫して生産できる体制が、一段と高い競争力を生んでいます。

ただ、全てのICを内製しているわけではありません。車の競争力を高めるためには何を内製し、何を外部から調達するか、そして、その調達先にはどのような協力をお願いするか、全体最適を考えた関係を保っていきたいと考えています。

### 一般の半導体メーカーとのビジネスモデルの違い

一般の半導体メーカーでは、最先端の微細化技術を用いるために常に最新設備を導入し、次世代の製品をいち早く販売し先行者メリットを得ることが競争のポイントとなっています。しかし、自動車用ICでは、求められる自動車の性能を実現し、絶対の信頼性を確保することが最重要使命ですし、必要とする機能実現には、必ずしも最先端の微細化技術である必要はありません。自動車用ICの競争力強化には、微細化を追い求めることなく、必要な性能を発揮できるように進化させることは技術的に可能なのです。

半導体の製造には莫大なコストがかかるものと思われていますが、このように自動車用ICの製造については、世の中で使い慣れた設備を、社内の英知を集めてうまく使いこなすことで、十分対応できます。しかも、その設備を長期間使用するので、設備コストは、一般の半導体メーカーより大幅に低くおさえることができます。

### より多くのICで「環境・安全・快適・利便」の実現に貢献

当社はセンサ類を中心にICの外販も行っています。社内外の需要増に対応するため、2006年3月に幸田製作所に新工場を竣工させたばかりですが、引き続き生産量の拡大が見込まれることから、タイムリーな生産体制の充実を図っていきたいと考えています。

デンソーがビジョンとして考えている、車の「環境・安全・快適・利便」の4要素のどれを実現させるにしても、ICは必要不可欠な存在です。また、車を運転するのは人間ですので、マシンとしての安全性を高めるだけでなく、運転する人間の状態をICの一種であるセンサが感知し、安全な状態に持っていくためのつなぎの役目を果たせるレベルとなることを目指しています。今後も優れたICを開発しつづけ、一層の社会貢献を果たせるように努力していきたいと思っています。

### デンソーの主なIC製品

#### センサ分野

車の制御に活かすため、圧力や速度変化などを感知する製品。

- 圧力センサ
- 加速度センサ
- 回転角センサ
- 光センサ



#### モノリシック IC 分野

一般に言う“ICチップ”のこと。高温やノイズなどに強いことがデンソーの強みで、ECUの競争力を向上させている。

- LSI
- 複合 IC



#### ハイブリッド IC 分野

トランジスタやコンデンサなどを1枚のセラミック基板上にまとめて組み込んだもので、一般的に高温、高振動に強いという特長がある。

- イグナイタ
- ディスチャージヘッドランプ用バラスト
- ラジエータファンモータコントローラ



# トピックス

## 第39回 東京モーターショーに出展

2005年秋、千葉県幕張メッセにて開催された「第39回東京モーターショー」に出展しました。

今回は、一般の方々にもデンソーを知っていただき、ファンになっていただくことを狙い、エンドユーザーに焦点を合わせたブースづくりを展開しました。特に、参加・体験型展示とわかりやすい説明に努め、未来を担う子どもたちにクルマの楽しさを感じてもらうことができました。



### デンソーブースの構成

- **総合カゾーン**  
幅広い製品分野とシステム統合力を紹介
- **ITS・安全ゾーン**  
安全、利便性などの先進技術を紹介
- **ハワトレインゾーン**  
環境性能と走行性能を両立させる技術を紹介
- **車室内空調ゾーン**  
次世代空調の開発で世界をリードする技術を紹介
- **小型モータゾーン(当社グループ会社)**  
自動車用小型モータ生産量世界No.1を紹介
- **モノづくりゾーン**  
技術を支える卓越した技能を親しみやすい展示物で紹介



主要製品約70点を搭載した車の模型



子どもたちが楽しめた参加型アニメーション

## 環境への取り組みの長期方針「デンソーエコビジョン2015」の策定

環境への取り組みの長期方針である「デンソーエコビジョン2015」を策定し、当社グループの総智・総力を結集し、環境との調和をめざした研究・開発と自然環境の保全を通じて、人々の幸福に貢献することを宣言しました。

また、当社ホームページより、この方針と国内外での様々な環境への取り組み活動をまとめた映像などをご覧ください。

アドレス：<http://www.denso.co.jp/ja/environment>



子どもたちへの環境教育プログラム「ECOレンジャー21」

## 金属意匠盤メータを開発

ECD<sup>※</sup>を使用した世界初の金属意匠盤メータを開発しました。

このメータは、本アルミを採用し、本物の金属が持つ光沢・存在感を感じさせる「洗練された高級感」と、強い光がさしても、センサが感知してECDを作動させ、メータのカバーガラスを自動で着色して「まぶしさを緩和させる機能」を併せ持つメータです。

このメータは、2005年8月に発売されたレクサスGSに搭載されました。

※ECD:透過率可変ガラス。電圧をかけるとカバーガラスが着色して透過率を変えることができます。

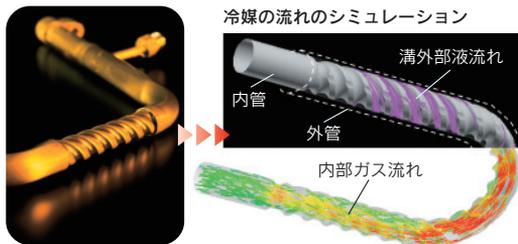


## 2重管式内部熱交換器を用いたカーエアコンシステムを開発

2重管式内部熱交換器を用いることで冷房能力を向上したカーエアコンシステムを開発しました。

このシステムは、同じ動力で駆動した場合、冷房能力を5～12%向上することが可能であり、2重管式内部熱交換器としては初めてフロントエアコンに用いられています。

また、このシステムのカギとなる「らせん溝」のアイデアは製造現場から提案されたもので、当社グループの技能と技術が融合することで開発できたシステムです。



## 卓越技能者表彰(現代の名工)を受賞

当社の社員3名が平成17年度卓越技能者表彰を受賞しました。

この賞は厚生労働大臣が表彰するもので、産業の第一線で働き、その道一筋に歩んで技能を磨き、後進の指導育成に努めた「現代の名工」に贈られるものです。

また、受賞社員の1名は、30歳で、全国最年少受賞となりました。

# こんなところにもデンソーが?!

## QRコード

最近よく見かける四角い電子回路のようなマーク。携帯電話で読み取ると、サイトが表示されるなど、便利な使い方もされています。実は、このQRコード、開発者はデンソーなのです。

### QRコードって?

QRコードは二次元コードの一種で、“QR”は“Quick Response”に由来しています。バーコードは一方方向だけに情報を持っているのに対し、QRコードは縦・横両方向に情報を持つことで、記録できる情報量を飛躍的に増加させたコードです。QRコードが扱うことのできる情報量は、バーコードの約20倍から100倍。数字だけでなく漢字・かなを効率よく表現でき、さらに360°どの方向からも高速な読み取りが可能であることから、幅広い分野で利用が拡大しています。



### 「読み取りやすいコード」としてデンソーが開発

デンソーも含め自動車産業などの生産現場で使われる「かんばん」には、従来バーコードが付けられていました。しかし、時代とともに、このバーコード方式の「かんばん」に対して、より多くの情報を表示したい、コンベア上を移動中でも読み取りたい、汚れに強くしたいなど、現場から様々な要望が出てきました。

デンソーは、これらの要望を満たすために、「リーダーにとって読み取り易いコード」というコンセプトで開発を進め、1994年にQRコードを発表しました。QRコードは、実際の現場のニーズから生まれた実用性の高い二次元コードです。

### 実際の使われ方いろいろ

QRコードはバーコードに代わり、生産・物流・販売などの様々なシステムで活用されています。例えば、文庫本の背表紙など、バーコードが使えなかった小さいスペースにもQRコードなら印刷が可能で、書店での在庫確認や欠品補充に利用されています。

また、読み取り機能付き携帯電話を利用した①URLへの自動アクセス、②通信販売などの決済、③施設の入退場管理などの用途も拡大しています。

デンソーはQRコードの特許を行使せず、使用をオープンにしていますので、国際規格にも制定されており、今後ますます普及することが期待されています。



# 主要製品一覧と主な得意先



エアコンユニット



エンジン制御コンピュータ



メータ



カーナビゲーションシステム



産業用ロボット

## 事業区分および主要製品

### 自動車分野

事業区分	主要製品
熱機器	冷暖房:カーエアコンシステム、バス・農建機用エアコン、トラック用冷凍機、空気清浄器 冷却機器:ラジエータ、冷却ファン、インタークーラ、オイルクーラ、フロントエンドモジュール、クーリングモジュール
パワトレイン機器	エンジン機器:点火コイル、マグネット、点火プラグ、グロープラグ、排気センサ、モノリス、DPF 機能品:各種バルブ(EGRバルブ、A/Tコントロールバルブ、A/Tソレノイドバルブ 他)、キャニスタ、ノックセンサ、アクセルセンサ、VCT、スロットルポデー、エアフロメータ、オイルフィルタ、エアクリーナ、吸気モジュール、シフトパイワイヤアクチュエータ、ホーン 燃料噴射:ディーゼルエンジン用製品(コモンレールシステム、列型・分配型ポンプ、ノズル 他)、ガソリンエンジン用製品(フューエルポンプ、フューエルポンプモジュール、フューエルフィルタ、インジェクタ 他)
電子機器	電子:エンジン制御コンピュータ、A/Tコントローラ デバイス:各種半導体センサ、モノリシックIC、ハイブリッドIC リレー
電気機器	電機:スタータ、オルタネータ EHV:インバータ、DC-DCコンバータ、電池監視ユニット EPS:電動パワステ用コンピュータ&センサ
情報安全	ボデー機器:メータ、エアコンパネル、リモートキー、ワイヤレスドアロックコントローラ、バック&コーナソナー、セキュリティシステム、ボデーコンピュータ ITS:カーナビゲーションシステム、ETC車載器、車両運行管理システム、データ通信モジュール 走行安全:エアバッグ用各種センサ&コンピュータ、ABS用アクチュエータ&コンピュータ、車間制御用レーザーレーダ&コンピュータ、プリクラッシュセーフティシステム用ミリ波レーダ&コンピュータ、ディスプレイランプ用パラスト、ヘッドランプコントロールシステム用コンピュータ
モータ	ワイバシステム、ウォッシュシステム、パワーウィンドモータ、パワーシートモータ、パワーステアリングモータ、他各種モータ

### 新事業分野

事業区分	主要製品
産業機器	自動認識関連製品:バーコードハンディスキャナ&ハンディターミナル、QRコードスキャナ&ハンディターミナル、非接触ICカード&リーダライタ、リモートID、セキュリティ機器 FA関連製品:各種ロボット、プログラマブルコントローラ 冷却・空調関係製品:機器用冷却器(携帯電話基地局用、コンピュータ用など)、灯油エアコン、スポットクーラ&ヒータ
生活関連機器	自然冷媒(CO <sub>2</sub> )ヒートポンプ式給湯機、自動水栓、昇降キッチン用モータシステム

注)2006年1月に事業グループの再編を行い、2006年3月期より新事業区分で表示しています。

### 主な得意先

国内	トヨタ自動車(株)、本田技研工業(株)、スズキ(株)、三菱自動車工業(株)、ダイハツ工業(株)、マツダ(株)、日野自動車(株)、いすゞ自動車(株)、富士重工業(株) 他
海外	ダイムラー・クライスラー、GM、フィアット、フォード、アウディ・フォルクスワーゲン 他



コモンレールシステム



オルタネータ



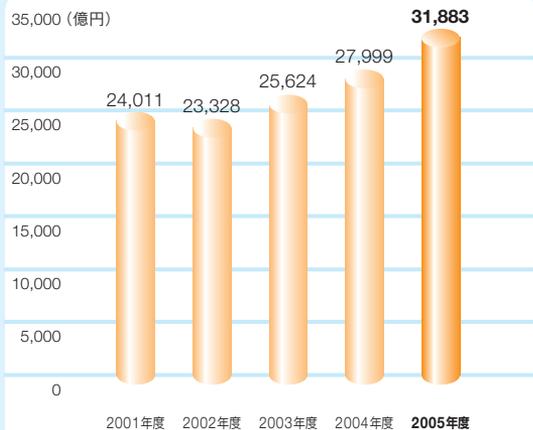
ワイバシステム



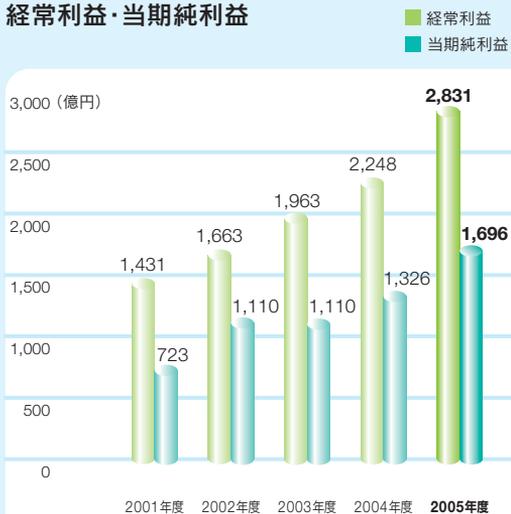
自然冷媒(CO<sub>2</sub>)ヒートポンプ式給湯機

# 連結業績の推移

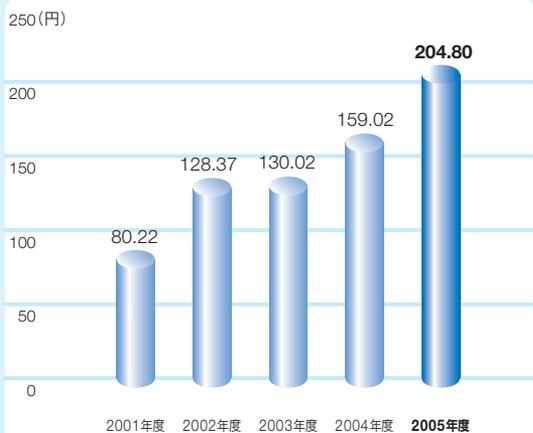
## 売上高



## 経常利益・当期純利益



## 1株当たり当期純利益



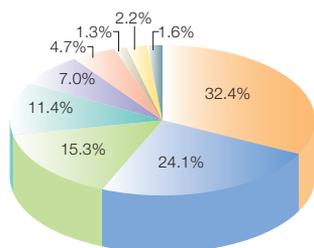
## 株主資本利益率(ROE)



# セグメント情報

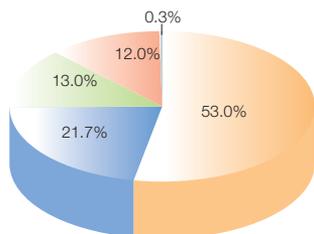
## 製品別売上高

### 製品別売上高構成



## 地域別(顧客の所在地別)売上高

### 地域別売上高構成



	2005年度		2004年度		増減率(%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
<b>自動車分野</b>					
熱機器	1,031,952	32.4	931,568	33.3	10.8
パワトレイン機器	766,912	24.1	646,166	23.0	18.7
電子機器	486,785	15.3	424,377	15.2	14.7
電気機器	364,840	11.4	331,426	11.9	10.1
モータ	224,731	7.0	193,646	6.9	16.1
ITS	150,866	4.7	120,938	4.3	24.7
その他	40,731	1.3	42,677	1.5	△4.6
小計	3,066,817	96.2	2,690,798	96.1	14.0
<b>新事業分野</b>					
産業機器・生活関連機器	70,258	2.2	58,920	2.1	19.2
その他	51,255	1.6	50,231	1.8	2.0
小計	121,513	3.8	109,151	3.9	11.3
合計	3,188,330	100.0	2,799,949	100.0	13.9

	2005年度		2004年度		増減率(%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
日本	1,690,215	53.0	1,554,795	55.5	8.7
北中南米	692,801	21.7	582,769	20.8	18.9
欧州	414,674	13.0	367,588	13.1	12.8
豪亜	380,541	12.0	287,627	10.3	32.3
その他の地域	10,099	0.3	7,170	0.3	40.9
海外計	1,498,115	47.0	1,245,154	44.5	20.3
総合計	3,188,330	100.0	2,799,949	100.0	13.9

# 連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	2005年度末	2004年度末	科目	2005年度末	2004年度末
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>1,400,593</b>	<b>1,167,715</b>	<b>流動負債</b>	<b>871,854</b>	<b>723,650</b>
現金及び預金	180,446	156,625	支払手形及び買掛金	446,057	383,160
受取手形及び売掛金	592,374	519,708	短期借入金	95,781	64,057
有価証券	207,263	131,099	その他の流動負債	330,016	276,433
たな卸資産	287,571	248,821	<b>固定負債</b>	<b>473,818</b>	<b>338,452</b>
その他の流動資産	132,939	111,462	社債	100,000	100,000
<b>固定資産</b>	<b>2,011,382</b>	<b>1,613,267</b>	長期借入金	70,304	41,641
<b>1</b> 有形固定資産	<b>974,975</b>	<b>852,821</b>	その他の固定負債	303,514	196,811
建物及び構築物	236,157	220,327	<b>負債計</b>	<b>1,345,672</b>	<b>1,062,102</b>
機械装置及び運搬具	416,744	341,743	<b>少数株主持分</b>		
その他の有形固定資産	322,074	290,751	少数株主持分	95,915	75,698
<b>無形固定資産</b>	<b>12,076</b>	<b>12,257</b>	<b>資本の部</b>		
投資その他の資産	1,024,331	748,189	資本金	187,457	187,457
<b>合計</b>	<b>3,411,975</b>	<b>2,780,982</b>	資本剰余金	266,182	266,051
			利益剰余金	1,329,974	1,191,370
			その他有価証券評価差額金	319,186	173,730
			為替換算調整勘定	△ 14,562	△ 55,608
			自己株式	△ 117,849	△ 119,818
			<b>資本計</b>	<b>1,970,388</b>	<b>1,643,182</b>
			<b>合計</b>	<b>3,411,975</b>	<b>2,780,982</b>

## 1 有形固定資産

有形固定資産は前期より1,222億円増加しましたが、主な要因は日本、米国、ハンガリー、タイなどでの設備投資が増加したことです。

## 2 固定負債

固定負債は前期より1,354億円増加しましたが、主な要因は日本、チェコ、韓国などの長期借入金が増加したことです。

## 3 資本計 (=株主資本)

株主資本は前期より3,272億円増加し、1兆9,704億円となりました。株主資本利益率(ROE)は9.4%となりました。

## 連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	2005年度	2004年度
<b>4</b> 売上高	<b>3,188,330</b>	<b>2,799,949</b>
売上原価	2,622,998	2,309,713
売上総利益	<b>565,332</b>	<b>490,236</b>
販売費及び一般管理費	298,773	276,341
営業利益	<b>266,559</b>	<b>213,895</b>
営業外収益	<b>33,062</b>	<b>25,448</b>
受取利息配当金	13,021	9,118
その他	20,041	16,330
営業外費用	<b>16,567</b>	<b>14,583</b>
支払利息	4,506	3,541
その他	12,061	11,042
<b>5</b> 経常利益	<b>283,054</b>	<b>224,760</b>
特別利益	<b>1,016</b>	-
特別損失	<b>12,216</b>	<b>1,314</b>
税金等調整前当期純利益	<b>271,854</b>	<b>223,446</b>
法人税、住民税及び事業税	104,346	90,110
法人税等調整額	△ 13,568	△ 6,824
少数株主利益	11,428	7,540
当期純利益	<b>169,648</b>	<b>132,620</b>

### 4 売上高

売上高は、堅調な国内車両生産と好調な海外日系車生産に加え、円安効果もあり、前期より3,884億円増加しました。

### 5 経常利益

経常利益は、増産対応で労務費、減価償却費などが増加しましたが、売上の増加に加え、コスト低減、生産性向上などに取り組んだ結果、前期より583億円増加しました。

### 6 フリーキャッシュフロー(①+②)

営業活動によるキャッシュフロー①は、営業利益の増加などにより953億円増加したものの、投資活動によるキャッシュフロー②は、有形固定資産の取得などにより502億円支出が増加し、フリーキャッシュフローは、前期より451億円増の496億円となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	2005年度	2004年度
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	271,854	223,446
減価償却費	185,143	160,993
売上債権の増減額(△:増加)	△ 54,878	△ 35,411
たな卸資産の増減額(△:増加)	△ 22,503	△ 27,932
仕入債務の増減額	44,033	29,132
その他	△ 55,074	△ 76,932
<b>6</b> 計	<b>368,575</b>	<b>273,296</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△ 277,329	△ 226,246
その他有価証券の取得による支出	△ 89,139	△ 89,623
その他有価証券の売却による収入	54,986	54,229
その他	△ 7,452	△ 7,142
<b>6</b> 計	<b>△ 318,934</b>	<b>△ 268,782</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金及び長期債務の純増減額(△:減少)	55,960	25,645
自己株式の取得による支出	△ 83	△ 23,875
配当金の支払額	△ 30,546	△ 21,686
その他	129	△ 181
計	<b>25,460</b>	<b>△ 20,097</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	<b>6,656</b>	<b>2,920</b>
<b>7</b> 現金及び現金同等物の増加額(△:減少額)	<b>81,757</b>	<b>△ 12,663</b>
現金及び現金同等物の期首残高	<b>231,846</b>	<b>244,509</b>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	<b>8</b>	<b>-</b>
現金及び現金同等物の期末残高	<b>313,611</b>	<b>231,846</b>

### 7 現金及び現金同等物の増加額(△:減少額)=ネットキャッシュフロー(①+②+③+④)

フリーキャッシュフローに、配当金支払額の増加、短期借入金による資金調達額の増加などによる財務活動によるキャッシュフロー③と、現金及び現金同等物に係る換算差額④を加算したネットキャッシュフローは、前期より944億円増の818億円となりました。

# 財務諸表(単体)

貸借対照表 (単位:百万円)

科目	2005年度末	科目	2005年度末
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>864,661</b>	<b>流動負債</b>	<b>644,747</b>
現金及び預金	91,171	支払手形及び買掛金	356,426
受取手形及び売掛金	376,127	その他の流動負債	288,321
有価証券	193,386	<b>固定負債</b>	<b>383,725</b>
たな卸資産	81,398	社債	100,000
その他の流動資産	122,579	長期借入金	40,000
		その他の固定負債	243,725
<b>固定資産</b>	<b>1,834,040</b>	<b>負債計</b>	<b>1,028,472</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>498,770</b>	<b>資本の部</b>	
建物及び構築物	112,297	<b>資本金</b>	<b>187,457</b>
機械装置及び運搬具	191,034	<b>資本剰余金</b>	<b>266,123</b>
その他の有形固定資産	195,439	<b>利益剰余金</b>	<b>1,016,539</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>8,571</b>	<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>317,944</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,326,699</b>	自己株式	△ 117,834
		<b>資本計</b>	<b>1,670,229</b>
<b>合計</b>	<b>2,698,701</b>	<b>合計</b>	<b>2,698,701</b>

損益計算書 (単位:百万円)

科目	2005年度
<b>売上高</b>	<b>2,057,045</b>
売上原価	1,755,451
<b>売上総利益</b>	<b>301,594</b>
販売費及び一般管理費	147,162
<b>営業利益</b>	<b>154,432</b>
<b>営業外収益</b>	<b>37,596</b>
受取利息配当金	25,609
その他	11,987
<b>営業外費用</b>	<b>7,132</b>
支払利息	436
その他	6,696
<b>経常利益</b>	<b>184,896</b>
<b>特別損失</b>	<b>336</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>184,560</b>
法人税、住民税及び事業税	65,580
法人税等調整額	△ 11,721
<b>当期純利益</b>	<b>130,701</b>
前期繰越利益	290,286
中間配当額	14,865
<b>当期末処分利益</b>	<b>406,122</b>

利益処分 (単位:百万円)

摘要	2005年度
当期末処分利益	406,122
特別償却準備金取崩額	68
<b>合計</b>	<b>406,190</b>

これを下記の通り処分いたします。

株主配当金	16,525 (1株につき20円)
取締役賞与金	276
監査役賞与金	30
次期繰越利益	389,359

注) 1 2005年11月25日に1株につき18円、総額14,865百万円の間配当を実施しました。

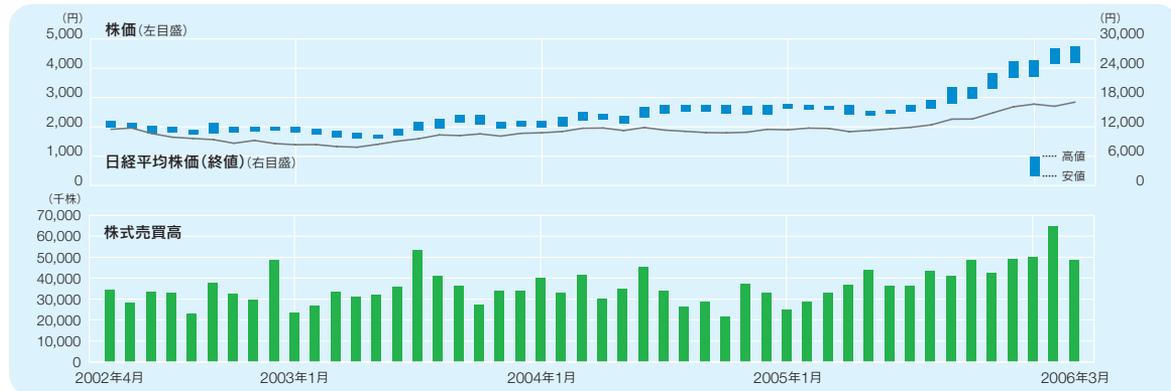
2 その他資本剰余金138百万円は次期へ繰越すことといたします。

# 株式の状況

(2006年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	1,426,942,000 株
発行済株式総数	884,068,713 株
株主数	61,178 名

## 株価の推移



## 配当金の推移

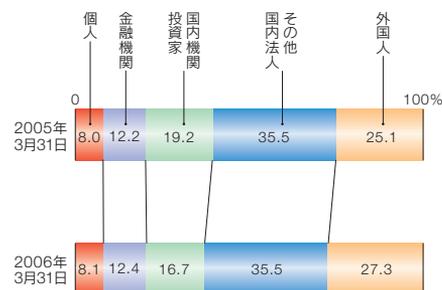
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
一株当たり中間配当(円)	10.00	11.00	13.00	18.00
一株当たり期末配当(円)	10.00	13.00	19.00	20.00
合計(円)	20.00	24.00	32.00	38.00

## 大株主 (上位10名)

大株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
トヨタ自動車株式会社	203,127	24.59
株式会社豊田自動織機	69,373	8.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	53,036	6.42
ロバートボッシュインダストリーアンラーゲン有限公司	47,434	5.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	39,205	4.74
日本生命保険相互会社	23,050	2.79
三井住友海上火災保険株式会社	16,148	1.95
デンソー従業員持株制度会	11,711	1.41
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	10,854	1.31
明治安田生命保険相互会社	9,373	1.13

注) 当社は自己株式57,773千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

## 株式保有者別分布状況 (議決権比率、%)



# 会社の概要

(2006年6月27日現在)

## 会社データ

社名	株式会社デンソー
英文社名	DENSO CORPORATION
本社所在地	〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1 TEL 0566-25-5511(案内)
設立年月日	1949年12月16日
資本金	1,874億円
従業員数(連結)	105,723名(就業員ベース)
国内事業所	製作所・工場 安城製作所 西尾製作所 高棚製作所 幸田製作所 豊橋製作所 阿久比製作所 善明製作所 池田工場(以上 愛知県) 大安製作所(三重県) 広島工場(広島県)
研究所	デンソー基礎研究所(愛知県)
試験場	額田(愛知県)
支社・支店	東京支社・支店 大阪支店 広島支店
連結子会社	179社 (日本66社 北中南米34社 欧州31社 豪亜48社)
持分法適用会社	31社 (日本13社 北中南米6社 欧州2社 豪亜8社 その他2社)



本社



デンソー基礎研究所

## 取締役

取締役会長	岡部 弘	専務取締役	福崎 倫生
取締役副会長	齋藤 明彦	専務取締役	阿野 正敏
取締役社長	深谷 紘一	専務取締役	加藤 光治
取締役副社長	犬飼 卓生	専務取締役	花井 嶺郎
取締役副社長	松本 和男	専務取締役	徳田 寛
取締役副社長	岩月 伸郎	取締役	豊田 章一郎
取締役副社長	小川 王幸		

## 監査役

常勤監査役	堀内 伸晃
常勤監査役	渡辺 敏男
監査役	張 富士夫*
監査役	岸田 民樹*
監査役	齋藤 勉*

\*社外監査役

## 常務役員

加藤 宣明	鹿村 秋男
大屋 健二	丸山 晴也
小林 耕士	Manfredo Nicoletti
松下 光生	榎野 孝和
太田 実	熊野 幹夫
広中 和雄	田島 明雄
土屋 総二郎	山中 康司
杉 光	北澤 栄
白崎 慎二	浅野 佳孝
西村 繁広	安達 美智雄
根井 也寸志	近藤 哲生
高尾 光則	鎌居 健一郎
柵木 充彦	若林 宏之
宮木 正彦	

## デンソーホームページ「投資家情報」

<http://www.denso.co.jp/ja/investors/>

当社は、株主・投資家の皆様へタイムリーに情報をお届けするため、ホームページを活用した情報開示に積極的に取り組んでいます。ホームページでは、最新の決算情報、過去の報告書・財務データや、今後のIRスケジュールなどがご覧いただけます。

このホームページでは、2006年6月に開催した定時株主総会の模様を動画でご覧いただけるほか、最新のニュースリリースや環境への取り組みなどもご紹介しています。ぜひご利用ください。



### DENSOニュースメール配信(無料)のお知らせ

株主・投資家の皆様へのサービス向上のために、EメールによるIR情報配信サービスを行っています。

ご希望の方は、デンソーホームページ「投資家情報」にアクセスした後、「DENSO ニュースメール配信」「登録はこちらから」をクリックしていただくか、下記の登録サイトに必要事項をご入力の上、ご登録ください。

<http://www.dirnet.jp/6902>

## ダウジョーンズ・サステナビリティ・ワールドインデックス (DJSI World) に6年連続で採用

DJSI Worldは、米国のダウジョーンズ社とスイスのSAM (Sustainable Asset Management) 社が、世界の時価総額上位2,500社を経済性・環境性・社会性の観点から評価し、採用銘柄を選定します。2006年度は、世界で322社(うち日本企業36社)が選ばれ、当社は6年連続で採用されました。DJSI World採用銘柄は、世界中で各種のSRIファンド(社会的責任投資信託)やエコファンド(環境投資信託)などへ組み込まれています。



# DENSO CORPORATION

## 株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

配当金受領 3月31日

株主確定日

なお、中間配当を実施する場合は9月30日です。

単元株式数 100株

証券コード 6902

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(同送付先) 〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店

野村證券株式会社 全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-232-711(お問合せ)

0120-244-479(各種手続用紙のご請求)

ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>